

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300096		
法人名	株式会社 TAKK		
事業所名	認知症高齢者グループホーム さくらハウス		
所在地	栃木県那須塩原市高林1931番1		
自己評価作成日	平成24年8月28日	評価結果市町村受理日	平成24年11月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成24年9月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でのんびり過ごしていただけるように、時間にとらわれない生活を目指している。
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さくらハウスは、那須塩原市の計画に基づいて高林地域に配置されたグループホームで、開設2年目である。この地域は人口密度が低く、グループホームの周囲も人家が少なく、地域の中で暮らす良さを見いだすのに困難を伴っている。しかし、地域の民生委員全員が運営推進会議に積極的に参加する意向があり、様々な地域の情報提供や支援を申し出ている。地域に育てられ、より良い運営を目指す姿勢がホームに見受けられる。職員が交代しながら入居者の動き回る行動を制止することなく、転倒に気を付け手を貸しながら納得するまで歩くことを許容している姿が見られた。また、食事後職員をリードしながら慣れた手つきで食器を洗う入居者の姿が活き活きしていて楽しそうであった。職員の寄り添うケアと入居者の存在を意識させるケアの一例であった。グループホームの運営は緒に就いたところである。管理者と職員が入居者と共に作り上げる今後に期待する。
---

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念はあるが、職員との共有はできていない。</p>	<p>開設から2年目に入り、職員体制や運営の構築などに取り組んできたものの、外部評価を受けるにあたっての職員の回答から、管理者は理念を共有した実践が不十分だと捉えている。しかし、職員の中には、理念に沿ったケアを行う努力をしている職員もいる。</p>	<p>法人としての理念に沿って運営しているが、ホーム独自の理念を管理者と職員で作ることによって、職員と理念の共有を図ることを期待したい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の小学校との交流会や、地域の方の協力を受けそば打ち等を実施している。</p>	<p>開設1年目から地域の高林小学校の6年生全員が交流会に参加している。小規模校の良さを活かした交流で、今年は1年生と4年生との交流が企画されている。また、近所の方がホームでそばを打ち一緒に食べたり、市内のレクリエーション協会のメンバーが敬老会に参加してくれたり、徐々に交流が広がっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>実施できていない。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族や地域の方々の意見を参考に職員への教育とサービス向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議には、消防署や駐在所、地域包括支援センターなどの参加があり、それぞれの立場から様々なアドバイスがなされている。また、地域の民生委員全員が運営推進会議に積極的に参加する意向があり、様々な地域の情報提供や支援を申し出ている。</p>	<p>開設の時の混乱から見守ってくれた民生委員から、少しずつ良くなっているとの言葉を励みに運営を続けているとのことである。このことは、地域からホームが認知されてきている証拠である。今後も地域に育てられ、より良い運営を目指して欲しい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村との連携は図れている。事故等の連絡についても速やかに報告している。</p>	<p>制度上の変更などがあった時などアドバイスを受けることその他、苦情の対応の仕方なども一緒に考えてもらっている。市役所に直接苦情が寄せられた時も、その対応策に関して支援がある等連携が図られている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束ゼロで取り組んでいる。玄関の施錠は夜間帯のみ。(22時～6時)</p>	<p>身体拘束する事は無く、帰宅願望のある入居者が外に出ていったときは、職員がついて行くことで対応している。職員はお互い声をかけ合って、目配りしながら、行動を規制するのではなく、意識を持って身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全身状態の観察を行いあざ等の確認と、精神状態の変化を見過ごさないよう努力している。			
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できていない。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱を利用しご家族の意見を伺っている。	運営推進会議などを利用して家族からの意見を聞く機会としているが、家族の参加は少なく、運営に関する意見も多いとは言えない。家族からの意見苦情は、記録として残され、ホームとして対応している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の勉強会を設け管理者も出席し職員との意見交換を実施している。	ヒヤリングした職員は管理者が話をきちんと聞いてくれるので提案しやすいと前向きである。居室の整理整頓や衣類の管理を入居者と担当職員が行うこと、入浴の方法、入居者を行う掃除や草むしり等、様々な対応をどうしたら良いか話し合い、職員と管理者は試行錯誤しながらより良いケアに向けて取り組んでいる。	より良いケアの実践のため、管理者と職員によって行っている勉強会の更なる充実を期待したい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の機会を設け意向の確認をしている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修受講に関して前向きに検討し、働きながら職員同士で学びの機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者でもある同法人の別事業所との交流を持っている。		
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安無く生活できるような環境を整えられるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を解消し安心して利用していただくために努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズを見極め対応できるように努力している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は一緒に行ってもらい環境を整えているが、利用者の状態の差があり、介護される側のみになっている方も居る。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態を理解して頂けるように報告し、協力を得ている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂き、面会や外出等を勧めている。	面会時間の制限はなく、家族が自由に訪れることを期待している。毎月の支払いのためにホームに来てもらう機会を作り、家族が通院介助を行うことで家族にも役割を担ってもらっている。併設する小規模多機能施設に知り合いが来ている時は交流できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士が協力し合い作業を行ったり、 一緒にレクや散歩を楽しめている。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っていない。			
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	個別介護を心がけてはいるが、集団での介 護になっている部分大きい。	利用者一人ひとりからは聞き取りは出来ていないと のことであったが、馴染みの職員が顔をうかがっ たり「～したいのかなあ」など推測している。食器洗 いや洗濯たみなど今まで行ってきた事を継続で けるように声をかけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	アセスメントにより情報収集に努めている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの把握に努めてはいるが、日々の 業務に負われていて個別介護ができていな い。			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	作成できていない。	ケアプラン・介護計画は、ケアマネジャーの資格 をもつ管理者が計画作成担当者と共に作成してい る。不穏がある時には、日々のケアの中で原因をさ ぐったり、対応時の様子を申し送りノートを活用して 情報の共有を図り、より良いケアができるように対 応している。	ケアの方法など職員間で話し合いがされて いるが、それを踏まえて本人、家族、必要 な関係者と話し合い介護計画を作成するま では至っていない。現在の介護計画の モニタリングを職員全員で実施することから 始め、更なるケアの実施に向け取り組んで 頂きたい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や経過についての記録はできて いるが、気づきや工夫はできていない。介護 計画にも活かせていない。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや状態の変化に伴い、他施設への検討など行っている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校との交流や近隣の方の協力で蕎麦の試食会など行っている。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続してもらい、ご本人の状態にあった医療を受けて頂いている。	通院は家族の付き添いで行っている。通院時には、バイタルや糖尿病がある人へは血糖測定の記事を渡している。また、不穏がみられる場合は、家族に状況を話し主治医へ伝えてもらうようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携は図れている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報交換を行っている。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合にはご家族との相談は行い、事業所でできる範囲は説明している。	食事や水分が取れなくなってしまう入居者に対して、ホームでできることには限界があり病院での治療によって改善できるのではないかと、家族との話し合いの上、病院に移った事例がある。看取りについて職員間で具体的な研修など行ってはいない。ホームとしては医療的な処置が必要となった場合には、家族と話し合いをし病院での治療を勧めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践できる体制に無い。			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制はできていない。	入居者も参加しての避難訓練を行った。事業所が近くに住宅の無い場所に立地しているため、災害時の近隣住民の協力態勢をつくるのは難しい。併設の小規模多機能施設との協力態勢について話し合いがされている。	
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけてはいる。	入居者本人が嫌な思いをしないで過ごせるように心掛けている。排泄や入浴などの際に恥ずかしい思いをしないようにするためにはどうしたらよいかなど職員間で話し合いを行っている。また、本人と家族の関係性が個々で違いがあるため、家族に関する話はプライバシーに配慮しながら行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を表現し易いような言葉かけや態度で接するように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合が優先になっている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選べたり、整容には気をつけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事をし配膳や後片付けを行っている。	開設当初、調理は外部委託していたが、業者の都合で委託が今年8月に中止となった。そのため職員が3食とも作ることになり、入居者にかかわる時間が減ってしまった。その後、職員が入居者へのケアを優先できるように、調理員を採用することで改善している。メニューは職員が考えている。薄味やわらかめにしたり、食べたいものをおいしく食べられるように工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況			
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後には行えていない。口腔ケアを拒否する方に関してはなかなか実施できていない。</p>			
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>一部の利用者を除き、トイレでの排泄は行えている。</p>	<p>自立で排泄が行えている人にも排泄後にそっと声をかけ、パッドがきちんとあたっているかなど確認をしている。声をかける時には必ず、1対1で声をかけるようにし、恥ずかしい思いをしないよう配慮している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取や適度な運動、必要時には便秘薬を使用し排便を促している。</p>			
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>強制することなく入浴を楽しめる時間帯を検討している。</p>	<p>浴室は併設の小規模多機能施設と共有しているため、そちらの入浴が終わった午後に入浴の時間をあてている。拒否のある人へは無理に誘うことはせず、夜の時間帯に誘ったり、仲の良い人と一緒に入浴のようにするなど、安全に楽しく入浴ができるよう配慮している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>部屋の温度や明るさの調節を行い、いつでも自分の居室でのんびり過ごせるように心がけている。</p>			
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>飲みすぎ飲み忘れの無いように職員が管理している。</p>			
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>1人ひとりに合った気分転換はできていない。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>全員一緒にの外出は実施しているが、個々での外出はできていない。</p>	<p>なかがわ水遊園や夏祭りなど月1回の外出を行っている。出掛ける前に拒否する入居者もいるが、上手く誘って出掛けてしまうととても楽しそうにしている姿もみられている。また、車椅子でも利用できるカフェに行き、ゆったりとした時間を過ごしている。今後も、外食や紅葉狩りなど計画している。</p>	<p>入居者の希望に添った個別の外出支援ができていないということであるが、ホーム全体としての外出は実施されている。今後は、食材の買出しなどに入居者と一緒に行くなど少人数での外出ができる機会を作ってほしい。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は施設で行っている。本人には現金は渡していない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>職員が電話をかけて話ができる状態になってから受話器を渡している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快感を与えないように清潔で整理できている空間を提供できるように心がけている。</p>	<p>隣接する蕎麦畑の白い花が眺められる食堂と畳の部屋が共用スペースで、入居者はここで過ごす時間が多いため、席の配置など配慮している。お風呂は広く、利用形態別の3つの浴槽があり、使用時間を工夫することで併設する小規模多機能施設と共用している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室で過ごしたり、和室のソファでくつろげるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や衣類・小物などを使用できるようにご家族とも相談している。</p>	<p>入居時には、見慣れているものがあると安心できるとアドバイスし、できるだけ使っていた家具などを持って来てもらっている。写真を家族が用意して持参する人、使い慣れた筆筒を持ち込む人、少ない荷物の人、持ち込むものは様々となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの表示や居室のドアにはネームをつけて分かりやすくしている。</p>		